

■一般測量事例

境界確定測量における ネットワーク型RTK-GPSの適用

土地家屋調査士 鈴木洋一事務所さま

■所在:宮城県仙台市

当世
測量事情

●宮城県仙台市

●導入経緯

GPS測量については、阪神淡路大震災後の関西で普及したこともあり、以前から関西知人の意見を参考にして仲間と勉強会を立ち上げていた。宮城県も過去大きな地震に何度も見舞われており、土地の境界を世界座標系での公共座標値を用いていれば、万が一、大地震が起き、境界の位置がなくなっても復元測量が容易にできることもあり、また、05年3月の不動産登記法の改正を機にネットワーク型RTK-GPSに対応したPASを導入する。

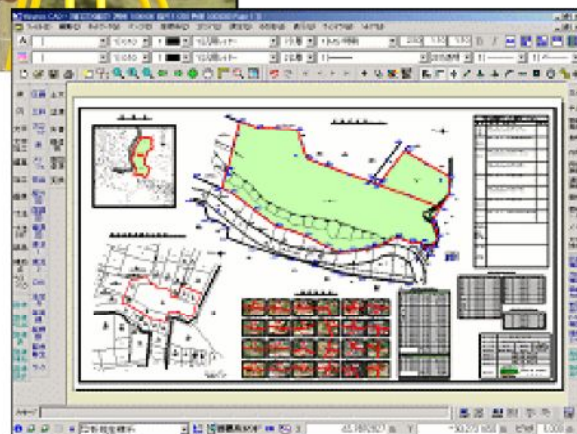


FKP方式を採用したのは、観測した座標値のばらつきが極めて少なく、誤差が緯度・経度方向に1cm~2cm以内に収まり高精度であったため。

また、従来のスタティック測量に比べ、GPS1台、調査員1名で観測可能であり、今まで1点の観測に1時間要したものが、数分で済み、作業効率も上がり、導入のメリットは大きい。



現場風景



土地協会確定図画面

提供:株式会社 ジェノバ